



EBENEZER
OPERATION EXODUS

堅く立つ時

「まことに、万軍の主はこう仰せられる。「しばらくして、もう一度、わたしは天と地を揺り動かす。」

(ハガイハガ 2章6節)



立ち上がる時

国際



ピート・スタッケン
Pete Stucken
国際議長

ハガイの揺り動かしの預言(上)はしばしば今年引用されました。コロナウィルスパンデミックによって私たちの日常の全一仕事やレジャー、スポーツ、芸術、ビジネスや民衆的活動、旅行、家族交流、友人、祈りの集会や教会の礼拝などが揺り動かされました。その余波は全世界に渡り、ハガイの預言の通り、世界の国々に及びました。彼はまた天と地、海と陸の揺り動かしの預言しました。今はまだそのような揺り動かしの見えていませんが、今後、さらにいろいろなことが起こるでしょう。

あのときは、その声が地を揺り動かしましたが、このたびは約束をもって、こう言われます。「わたしは、もう一度、地だけではなく、天も揺り動かす。」

この「もう一度」ということばは、決して揺り動かされることのないものが残るために、すべての造られた、揺り動かされるものが取り除かれることを示しています。

「こういうわけで、私たちは揺り動かされない御国を受けているのですから、感謝しようではありませんか。こうして私たちは、慎みと恐れをもって、神に喜ばれるように奉仕をすることができます。私たちの神は焼き尽くす火です。」ヘブル12章26-29節

ヘブル人への手紙で、ハガイの預言を引用しており、揺り動かしの大きな影響を指摘しています。そして揺り動かされないものが残ることが強調されています。(ヘブル12章27節)これらのものは、揺り動かしが全く影響することができないものであり、問題や困難のただ中であつてもたち続けるものです。私たちは今それを見ています。揺り動かされないものの一つは、ユダヤ人たちがイスラエルへ集められることです。これは主の聖なる目的であり、そのことは成就するのです。主の道は整えられていきます。荒野の中にあつても道は整えられ、ユダヤ人帰還のための大路が開かれるでしょう。このことは揺り動かされないことなのです。

困難な状況の中でもアリヤーの働きが続けられるのを私たちは見えました。多くの人が驚いたことに、イスラエルへのアリヤーの



門は、パンデミックの間にも開かれていたのです。飛行機の便が減り、隔離対策も厳しくなりましたが、アリヤー許可が与えられ続け、オリムも続いてやってきました。ロシア、ウクライナ、アメリカ合衆国、エチオピア、その他多くの国々から帰還者がやってきました。イスラエルにおけるエベネゼルチームは、能力の限界まで引き延ばされました。ユダヤ機関による許可証を携えて、彼らはロックダウン中も通りに出ていき、隔離されているオリムの基本的な必要を満たすために、食料品や食料券などを配っていました。

私たちは、揺り動かしの中にも立ち続けるものを見守っています。4月25日、ヨーロッパはロックダウン中でしたが、サンレモ宣言100周年がオンラインでお祝いされました。聞く耳のある者達に対して、神様のイスラエルへの忠実さの宣言が国々に対してなされたのです。ちょうど今から100年前に、主要同盟国がイタリアのサンレモで集まった時に、ユダヤ人の故郷としての国をイスラエルに建てるというシオニストのビジョンが、国際法において確立されたのです。

イスラエルの国家としての合法性が多くの場所で疑問視されている現代、イスラエルの神の御計画と目的は堅く立つのです。神は、世界が今まで見たことのないほどの、散らされた民が再び集められるという驚くべき出来事を見守っておられるのです。ユダヤ人たちが世界各地に散らされてから約2000年後の今、神様が注意深く

写真:

バルフォア宣言を組み込んだ1920年の決議の後、サンレモ会議の参加者たち

「まことに、万軍の主はこう 仰せられる。しばらくして、もう一度、わたしは天と地と、海と陸とを揺り動かす。わたしは、すべての国々を揺り動かす。すべての国々の宝物がもたらされ、わたしはこの宮を栄光で満たす。万軍の主は仰せられる。」ハガイ2章6, 7節

また愛をもって、神の古代からの契約の民を再び集めておられるのです。イスラエルの地は彼らのために分けられ、整えられ、約束された地なのです。これは揺り動かされることのないもので、残り続けるものなのです。

イスラエルの国外にいるユダヤ人の中には、コロナウィルスの影響を受けて苦しんでいる方も家族を失って悲しんでいる方もいます。またパンデミックの中で、経済的な困難や不安感があります。散らされた地域のユダヤ人たちの快適さと安全は、目に見えて揺り動かされています。しかし、イスラエルは比較的この状況に効果的に対処しているようです。それで、イスラエルは魅力的な選択支として見られ始めています。今では、ニューヨークのラビが、イスラエルがすべてのユダヤ人にとってふさわしい故郷であると宣言しています。長い間、アメリカやヨーロッパで、ユダヤ人は安全な将来が確保できると考えられていましたが、それも根本的に揺らいでいます。

イスラエルにおける、アリヤー吸収省大臣のブニナ・タマノーシャーとユダヤ機関議長のイサク・ヘルソグは二人とも今後大

規模な移民の波が起こると予想しています。国々のエベネゼルの祈りのパートナーたちもこのような波が起こってくることを感じています。私たちの任務は、このアリヤーの大路のための実際的な準備と、集中的な祈りをするということです。

オンラインミーティングの技術によって、国内外において、私たちは新しい方法でつながり、互いに近づくことができています。これによって強い一致が生まれ、準備していくことと祈ることについての献身が強まっています。私たちは多くの国々から来ています。しかし、アリヤーのために神様の御手の中においては、ひとつの器なのです。このことは、これから起こることをあらわしているものです！

ユダヤ人が再び集められることは、揺るがされない御国の非常に重要な部分です。私たちは主への恐れをもって、喜びつつ仕えていきたいと思えます。

用語解説

アリヤー(Aliyah):
ユダヤ人が約束の地、イスラエルに帰還することを意味します。
ユダヤ機関 (Jewish Agency):
1929年 C.ワイズマンによって創設され、エルサレムに本部をもつユダヤ人の国際的機関。パレスチナにユダヤ人の本拠を設けるというシオニストの計画の対外機関。パレスチナへのユダヤ移民の監督、ユダヤ系経済組織の確立などに努める。

オリム(Olim):
イスラエルに帰還するユダヤ人



タシュケントからの特別便

ウズベキスタン



ウズベキスタン
リーダー

コロナウィルスによるロックダウンの為、ウズベキスタンからのアリヤー便が何度かキャンセルされました。しかしついに許可が下り、オリム達はイスラエルへ向かっています。

23人のオリムが、タシュケントからテルアビブまでの飛行機の便を予約していました。しかしパンデミックにより、彼らはアリヤーできなくなるのではないかと心配していました。しかしながら、神様は別の御計画をもっておられました。多くのイスラエル人が帰国する許可をもらったため、それと同じ飛行機に乗ってイスラエルへ行く許可が与えられたのです！

彼らは、午前3時に空港でチェックインをしなくてはなりませんでしたが、通常はこのことは問題ではないのですが、ロックダウンのために、タシュケントでは誰も夜に出かけることができなかつたのです。しかし、再び主は働かれました。ウズベキスタンからイスラエルへ帰国するイスラエル人は夜に外出することが許されたので、同じ便に乗る他の乗客たちも許可をもらえたのです。

私たちはオリム達をチェックインに間に合うように空港へ連れて行きました。その時にはエスカレーターさえも動いていなかったため、私たちは何とかすべての荷物を階段で運び上げました。様々な地域から来ていたオリム達はとても疲れていました。

しかも、便が何度もキャンセルになったり変更になったりしていたため、彼らは非常に緊張しており、イスラエルへ行くことができるのか心配していました。しかし、私たちは、この状況の中でも神様の平安と喜びを感じていたのです。すべてがうまくいくと信じて、できる限り彼らを励ましたのです。

私たちが彼らに説明したのは、神様はロックダウンにもかかわらず、飛行機を送り彼らが帰還できるようにして下さっただけでなく、彼らのために警備と医療スタッフが容易されていたということでした。

彼らはこのことを聞いて励まされていました。私たちはこのように、約束の地へ帰るといふ神様の召しを全うするのを待っている人々に慰めを与えることができました。そし



写真

上左と右:ブラディ
ミル&ディレアと娘

下左:12年前に5人
の女の子たちに文
房具を届けた時

て、彼らは私たちが語っていることを理解し始めると、だんだん安心していきました。

この団体の中にブラディミルとディレアと彼らの一人の娘がいました。他の4人の娘たちはすでにイスラエルに住んでいました。一人だけはウズベキスタンにしばらく残っていたのです。私たちが彼らに初めて会ったのは、12年前に行われた「学校用の文房具プロジェクト」を通してでした。

このプロジェクトは、新しい学年が始まる子供のために文房具を提供するものです。その時には、ブラディミルとディレアはイスラエルへ帰還することに関心がないようでした。イスラエルは自分達の国ではないし、ディレアの母はすでにアリヤーしていましたが、イスラエルでの生活をあまり喜んでいないようだったからです。しかし、私たちは彼らを励まし続けました。そして、2017年に彼らは自分達で、「その地を偵察しに行く」と言って、イスラエルへ向かったのです。

彼らはその旅から帰って来ると、イスラエルに住む方が家族にとってよいと確信して、アリヤー申請の準備に取り掛かりました。うれしいことに、彼らの4人の娘たちは、昨年自分達ですでにアリヤーしていました。そして、今はブラディミルとディレアと一人残った娘の番となったのです。彼らはもともと6月の便で帰還することになっていましたが、5月初めの便があると聞いてそちらを希望したところ、許可がもらえたのです。彼らの長女は結婚して二人子供がいますが、彼らもまた近い将来アリヤーする予定です。

5月に出発したもう一つの家族は、セミオンとエウジニアです。彼らはもともと3月にアリヤー便に乗って帰還する予定でしたがその便がキャンセルされました。その時には妊娠7か月だったエウジニアは、5月には臨月を迎

えていたため、通常の状態では飛行機に乗ることが許されないのですが、通常では考えられない状況があり、明らかに主が彼らをこの便に乗せる計らいをしてくださったのだと思います。そして、彼らは5月にアリヤーすることができました。

主は素晴らしい方法で、彼らの必要を満たしてくださいました。私たちは、彼らの経済的な面での支援や、空港の送り迎えや荷物を運ぶ支援などを行うことができました。私たちにとって、彼らのためにこのような支援をすることができ、神様の驚くべき預言の一端を担うことができることは何という特権でしょう！神様の忠実さに感謝します。そして神様の聖なる御名がこのすべてを通して栄光をお受けになりますように！



複雑な状況下でのア リヤーの祝福

イスラエル



イスラエル
ラフィ・ヒューマン
Rafi Heumann
ケレン代表

ラフィ・ヒューマンは、ケレン・ヘイソッドUIAという、イスラエルのための国際的な非営利団体で働いています。この団体は、ユダヤ人とシオニスト運動のために寄付を集めるために1920年に設立されたものです。ここで、彼から、アリヤー支援をしたある家族について聞いてみました。

イゴルとマリアと彼らの息子のイバンとイゴルの年老いた父親のブラディミルは、今年の6月に、ウクライナのキエフからイスラエルへと飛び立ちました。彼らは受けた支援に非常に感謝していました。なぜなら、彼らにとってアリヤーすることはたやすいことではなかったからです。8歳のイバンは自閉症だったので、旅行が非常に大変でした。マリアは大学で外交問題についての学位をとっていましたが、家庭で息子の世話をしていました。

ブラディミルには彼自身の問題がありました。彼は何年か前に脳梗塞を起こしていたため、車椅子で生活していました。飛行機で旅行するためには、医者からの許可が必要でしたし、航空会社から、必要ならば座席を一行全部使うことができるという保証が必要でした。

彼らはアリヤーをしたいと願って、ユダヤ機関へ行って支援を要請しました。また、ヘブライ語も学び始めました。彼らの必要は複雑なも

のでしたが、ユダヤ機関の担当者たちの尽力により、よい吸収プログラムが整えられ、今年の3月までには、彼らの書類が整い、アリヤーする準備ができました。しかしその後、多くのオリムに影響を与える出来事が起こったのです。コロナウィルスのパンデミックがウクライナ全体に影響を与え、すべてが封鎖されました。それで、この家族はどこへも行くことができなくなったのです。

しかし、その何週間か後に、ユダヤ機関は青信号を受け取り、突然アリヤー便が再開されることになりました。「私たちのヘブライ語の知識は十分ではありませんが、ユダヤ機関のすばらしい方々と、このようなすべての支援をしてくださった団体の方々に、「トダ・ラバ」(ありがとう)と言いたいです。」とイゴルとマリアは言っていました。

マリアは続けてこう言いました。「私は、今まで受けたすべての支援を思うと、感謝で涙がとまらなくなるのです。今日も、アリヤー支援してくれたクリスチャンの方々が、朝5時に私たちを迎えに来てくれて、私たちの特別な必要のために助けてくださいました。このことは一生忘れることがないでしょう。・・・私たちはイスラエルへ帰還できることを本当に喜んでます!夢がついにかなうのです!」

写真

ヘイソッドUIA

イゴル、マリアとイバンのために(左)、またブラディミルのために(右、車椅子に乗っている)「夢がついにかなえられる」ユダヤ機関の使節に迎えられる



アメリカのユダヤ人がイスラエルへ心を向けている

U.S.A.



ジョン・プロッサー
John Prosser
アメリカ代表CEO

「その日、主は再び御手を伸ばし、ご自分の民の残りを買い取られる。残っている者をアッシリア、エジプト、パテロス、クシュ、エラム、シヌアル、ハマテ、海の島々から買い取られる。」イザヤ11章11節

今年の初めに、私たちは明確に主が、USA出エジプト作戦が新しい季節に入ったと聞きました。つまり、この年が、私たちの国と世界中からの大規模なアリヤーの時となるということです。

私は、このようなコロナウィルスの状況にもかかわらず、神様が、アメリカのユダヤ人のイスラエルに対しての考えを全く新しく変えてくださるとは思いもしませんでした。しかし、この恐るべきウィルスのためにユダヤ人の多くが亡くなるという中で、ユダヤ人の心がイスラエルへ向けられるようになったのです。多くのユダヤ人にとってこれは初めてのことでした。

ニューヨークにある、EITAN (アメリカ・イスラエルユダヤ人ネットワーク)の会長のラビ・エルチャナン・ポープコによって書かれた記事が私の目に留まりました。そこで彼は次のように書いていました。「散らされた地にいるユダヤ人と、イスラエルにいるユダヤ人の状況の違いは、コロナ禍の中で変化し、散らされた地のユダヤ人たちのイスラエルに対する見方が変わってきています。もし、第二次世界大戦後とコロナ後の時代を関係づけるものが

一つあるとすれば、今後世界がどうなるか全くわからないという点でしょう。・・・しかし一つ確かなことは、アリヤーの時代が来るということです。」

私たちの国において、また世界においても、生活がさらに不安定なものとなっている今、変化の勢いがアリヤーの津波を引き起こし、世界中からユダヤ人が神によって与えられた地、イスラエルへと押し寄せてくるでしょう。」

この危険で予測不可能な時代に生き続けている中、さらに多くの、さらに深い祈り、そしてさらに深い献身が、私たち一人ひとりに求められていると思います。これは、神様だけがもたらすことのできる聖なる働きです。神様は御自身の御手を延ばして、再び御自身の民を集めて帰還させてくださるのです。

この終わりの預言的な時代に、神様とともに働くことができることは特権です。皆さんとともに神様に仕えることができるというのは、本当に祝福です。皆さんの忠実、寛大なサポートに感謝いたします。神様が皆さんと皆さんの家族を、健康、守り、備えをもって豊かに祝福してくださいますように。皆さんの心が主の平安で満たされますように!



アリヤーの緊急性

イスラエル



イスラエル
ラフィ・ヒューマン
Rafi Heumann
ケレン代表

国々のクリスチャンとユダヤ人は、時のしるしを通して、ユダヤ人がイスラエルへ帰還しなければならない緊急性を理解しています。

台頭する反ユダヤ主義によって、人々に警戒心が高まっています。2019年には、アメリカのユダヤ人に対して、2000件もの暴力や破壊行為や嫌がらせがありました。そのうち、96人が負傷し、5人は死亡しました。イギリスでは、1805件ものユダヤ人に対する犯罪があり、暴力は25%増加しています。ヨーロッパにおいては、2019年に28ものユダヤ人の公民館や学校が攻撃されました。そのため、ヨーロッパの16歳から34歳までのユダヤ人の41%が反ユダヤ主義のため、イスラエルへの移住を希望しています。

反ユダヤ主義の波によって、アリヤー申請者が増加してきました。2020年には、1320人以上のアメリカのユダヤ人が、アリヤー申請を始めています。(昨年のこの時期には561人) フランスでは、2000人が今年の5月にアリヤ



ー申請をしました。2019年5月には200人のみでした。旧ソ連からは、約6万人のユダヤ人がアリヤーに対する関心を示しています。

「イスラエルへの大規模な移住の波のために、私たちは準備をしなければならない。」と、ユダヤ機関会長のイサク・ヘルソグは言っています。「私たちの予測によれば、今後2年の間に、約10万人のユダヤ人がイスラエルへ移住するだろう。」彼はまた、今後海外からの献金が減少すること、そのための周知な準備への呼びかけを語っていました。

エベネゼルは、破れ口に立ち、アドバイスをしたり実際的な支援や財政的なサポートをしています。ユダヤ人の移住者は、異邦人の信者がこのように架け橋となっていることに驚いています。異邦人たちには、やがて来るアリヤーの大波において聖書的な役割を果たす特権が与えられているのです。

「神である主はこういわれる。「見よ。わたしは国々に向かって手を上げ、わたしの旗を諸国の民に向かって掲げる。彼らは、あなたの息子たちを懐に抱いてくる。あなたの娘たちは肩に担がれてくる。」イザヤ書49章22節



Operation Exodus

Ebenezer Operation Exodus
International & UK Office
PO Box 9103, Bournemouth
BH1 9DA, UK
+44 (0) 1202 294455
enquiries@ebenezer-ef.org
www.operation-exodus.org



Operation Exodus USA
PO Box 568 Lancaster NY 14086
Phone: 716 681 6300
info@ebenezerusa.org
www.ebenezerusa.org



エベネゼル緊急基金日本支部

〒062-8691 豊平郵便局私書箱 37号
Tel&Fax: 011-813-3558 (岡田)
office@ebenezerjapan.org
http://ebenezerjapan.org/
郵便振替 (名称) エベネゼル緊急基金
(番号) 02710-0-55842

Operation Exodus (出エジプト作戦) はエベネゼル緊急基金の実際的な働き of 名称です。すべての国々からユダヤ人がイスラエルの地に帰還するように支援しています。彼らが約束の地に帰還するという神の計画と目的を宣言するべく1991年に3人の人から始まりました。

イギリス本部、アメリカ、スイス、ドイツを中心に国際的活動を展開し、さらにイスラエルを含めた25カ国に各国代表者と各国支部を配置しています。そして、旧ソ連諸国には実際的な働きのために、数多くの活動の拠点を設置しています。日本支部もその働きの一部です。